

## 原 著

# 卒業生の技術力を高めるための基礎教育と臨床との連携 —卒業生の知識・技術の習得度と臨床が期待する 習得度の調査より—

新潟県厚生連中央看護専門学校、元教務主任<sup>1)</sup>、教務主任<sup>2)</sup>、副学校長<sup>3)</sup>

袖山 悦子<sup>1)</sup>、齋藤 敬子<sup>2)</sup>、林 幸子<sup>3)</sup>

## 抄 録

看護師養成教育は、1996年にカリキュラムが改正され、実習場所の拡大、病院実習時間が減少された。資格のない学生は、体験する技術の範囲も狭まれ、即戦力を求める臨床の要望に応えづらい状況である。

そこで、新カリキュラムを修了した当校の卒業生を対象に、卒業時の知識・技術の習得度と臨床が期待する習得度の調査を行なった。結果、臨床側は、日常的に行っている看護技術は卒業時習得していることを期待しているが、それに応えていない基礎教育の状況が明らかになった。卒業生の技術力を高めるために、基礎教育と臨床の役割について以下の示唆が得られた。

1. 臨床側の知識・技術の習得への期待の高い技術項目について、学校課題とするかを検討する、
2. 臨床と連携し実習体験を広げ、学校課題は学校の責任として到達度を確認し、その情報を赴任先に提供できるようにする。

キーワード：卒業生の知識・技術の習得度、臨床が期待する卒業生の知識・技術の習得度、基礎教育と臨床の連携

## はじめに

看護師養成教育は、1996年にカリキュラム（以後、新カリキュラムと略称する）が改正された。実習場所が拡大し、病院実習の時間は減少し、資格のない学生は、体験する技術の範囲も狭まれ、即戦力を求める臨床の要望に応えづらい状況である。そのため、卒後臨床研修が求められるようになってきた<sup>1)</sup>。

当校の卒業生へ2002年に業務上困っていることを調査した結果、診療の補助業務において困難をきたし、ヒヤリ・ハットも多いことが分かった<sup>2)</sup>。

今回、新カリキュラムを修了した当校の卒業生を対象に、卒業時の知識・技術の習得度と臨床が期待する習得度の調査を行なった。結果、卒業時の知識・技術の習得度と臨床の求めには乖離がみられた。結果の分析から卒業生の技術力を高めるために、基礎教育と臨床の役割に関する示唆が得られたので報告する。

## I. 研究目的

卒業生の卒業時点での知識・技術の習得度の確認と臨床の求める習得度を調査し、卒業生の技術力を高めるための改善点を見出す。

## II. 研究方法

### 1. 対象

- 1) 1999年～2002年の当校卒業生で、系列病院に就職し、2002年8月現在在職している者94名。  
なお、当校は1学年定員60人、病院付属の看護学科3年課程の養成所である。卒業者は、ほぼ系列病院に就職する。
- 2) 臨床で新人の指導を主に行う系列病院の看護部長、看護師長、プリセプターナース214人。

### 2. 調査期間

2002年8月～2002年10月。

### 3. 調査方法

川村の「新卒看護婦・士における医療事故防止関連の知識・技術の習得状況」の調査項目<sup>3)</sup>を使用した。なお、当校では実習で体験を必修とする技術項目を設定しており、学校課題として追加した。

### 4. 配布・回収方法・回収率

病院ごとに調査の意図を説明し、同意書で同意が得られた対象に実施し、回収した。卒業生の回収率は、91.4%、有効回答率は、96.5%であった。臨床の看護師の回収率は、85.5%、有効回答率は94.5%であった。

### 5. 集計方法

卒業生は、「はい」「いいえ」で回答し、「はい」の合計を、看護師は、基礎教育で習得を「望む」「そこまで望まない」で回答し、「望む」の合計を、それぞれの総回答数に対する割合で表した。

## III. 結果及び分析

結果は図1,2,3のとおりであった。

### 1. 卒業生の知識・技術の習得度と看護師が卒業時に期待する知識・技術の習得度（表1）

- 1) 注射業務の手順・技術（項目番号1～17）  
17項目のうち、臨床の期待度が80%以上は、

8項目(47.1%)、卒業生の習得度50%以下は、10項目(58.9%)で、看護師と学生との乖離30%以上は、8項目(47.1%)である。これは、臨床では日常業務であり、基本的な知識・技術のため期待度が高いが、学校では卒後の教育と考え、講義していない項目が3項目あり、実習での体験も少ないため、乖離が大きいと思われる。

#### 2) 注射薬の知識(項目番号18~49)

32項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、13項目(40.6%)、卒業生の習得度50%以下は、27項目(84.4%)、卒業生と看護師の乖離30%以上は、23項目(71.9%)である。学校では、卒後の教育と考え講義していない項目が7項目ある。

### 2. 卒業生の知識・技術の習得度と看護師が卒業時に期待する知識・技術の習得度(表2)

#### 1) 与薬業務(項目番号50~55)

6項目のうち、看護師の期待度が80%以上は2項目(33.3%)、卒業生の習得度50%以下は、4項目(66.7%)、看護師と卒業生の乖離が30%以上は、1項目(16.7%)である。学校では、知識は必要と捉え、全ての項目を講義している。

#### 2) 輸血の知識と技術(項目番号56~66)

11項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、4項目(36.4%)である。卒業生の習得度は低く、看護師と卒業生の乖離も、8項目(72.7%)である。卒業生の習得度が低いのは、知識は重要と捉え講義をしているが、実習で体験する機会が少なく、学校課題ではないことが関連していると思われる。

#### 3) 輸液ポンプ・シリンジポンプの知識と技術(項目番号67~74)

8項目のうち、看護師の期待度が80%以上の項目はない。卒業生の習得度は全て50%以下で、看護師と卒業生との乖離も全て30%以上である。これは、臨床側が卒後教育と考えていると解釈できる。学校では、ME機器関連の講義は行っているが、実習では学校課題でなく、学生には難しい技術であり、体験する機会も少ないことが習得度の低さと関連していると考えられる。

#### 4) 人工呼吸器の知識と技術(項目番号75~100)

26項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、1項目(3.8%)、卒業生の習得度が50%以下は、26項目(100%)で、看護師との乖離は、22項目(84.6%)である。看護師と卒業生の乖離はあるが、人工呼吸器装着患者を受け持つ学生はほとんどいないため、卒業生の習得度は低く、臨床の期待度も低いと思われる。

### 3. 卒業生の知識・技術の習得度と看護師が卒業時に期待する知識・技術の習得度(表3)

#### 1) 採血の知識と技術(項目番号105、106)

2項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、1項目(50%)で、卒業生の習得度50%以下は、2項目(100%)である。看護師と卒業生との乖離は、2項目である。期待も学生の習得度も低いのは、学内では技術演習を行っているが、実習では「失敗」「成功」が明白であり、患者に侵襲をきたすおそれがあり、学校課題から外していることが関連していると考えられる。

#### 2) 経管栄養の知識と技術(項目番号107~109)

3項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、3項目(100%)である。卒業生の習得度50%以下は、3項目、看護師との乖離も3項目とも30%以上で、看護師の期待は高いが卒業生の習得度は低い。経管栄養は、臨床では日常的な業務であり、在宅療養者にも実施者が多いことから期待度が高いと考える。しかし、学校課題とはなっていない。

#### 3) 学校課題(項目番号101~104、110~124)

19項目のうち、看護師の期待度が80%以上は、15項目(78.9%)、卒業生の習得度が50%以下は6項目(31.6%)である。看護師との乖離30%以上は5項目(26.3%)である。乖離が少ないのは、学校課題のためと考えるが、卒業生の習得度50%以下の項目が、6項目もある。この6項目は、実習で体験の機会が少なく、意図的な実施や補習によりようやく履修している状態で、一人で実施できるまでには至らなかったものと思われる。

## IV. 考 察

### 1. 臨床と卒業時の学生の技術習得度の乖離

調査の結果、看護基礎教育での技術の到達度と臨床の求めに大きな差があることが分かった。臨床で日常的に看護師が行っている診療の補助技術のうち、「注射や与薬」「経管栄養」では、乖離が大きい。よって、学校課題については、学習の強化をはかり、体験の機会を広げるなど到達度を上げる必要がある。また、日常的な看護業務として行われている「経管栄養」などは、学校課題に追加する等の検討が必要と考える。

また、乖離が大きかった注射のうち、静脈注射については、1951年の行政判断から、2002年に、看護師の業務に拡大するとの通知が出された<sup>4)</sup>。静脈注射が、日常的に看護業務として行われてきたことも事実で、看護師が、その責任を問われた判例もある<sup>5)</sup>。注射は身体への侵襲が甚大な技術であり、知識不足が重大事故に繋がる。実習での体験を検討し、学習を発展させる工夫をすることが必要と考える。

### 2. 学校課題の位置づけ

学校課題のうち、受け持ち患者の援助を通して日常的に体験可能な技術項目は習得度が高く、看護師の期待度との一致度が高かった。しかし、留置カテーテルや吸引の知識・技術は、習得度が低かった。これらは、実習で体験の機会が少なく、意識的な実施や補習によりようやく履修している状態である。実習で体験する機会が多いことが知識・技術の習得に繋がる。そうすると、学校課題の中で意識的に体験の機会を提供しなければならない技術項目について、学校は、何らかの補いや対策をとる必要がある。

学校課題は習得を目指しており、習得状況を確認する学校としての責任がある。また、個々の学生の一人で実施可能な技術は何か、どの技術を体験したのかを明確にし、その情報を臨床に提供すれば、卒後教育に有効活用が可能になると考える。

### 3. 臨床との連携

看護は実践の科学であると言われながら、新人の実践能力が低下してきており、臨床の期待と基礎教

育の到達度との乖離があることを、臨床と学校の双方で真摯に受け止めなければならない。それは、「指定規則」では、教育課程の1/3を実習と定めており、実習で実践能力の基礎を培うことを考えると、臨床と学校の連携の強化がなされない限り、実践能力の向上は望めないためである。

臨床と学校との連携の強化では、患者に安全・安楽な看護援助を看護師の指導の基に学生が実施できる体制作りを臨床と協力して行うことが必要である。実習では7~8人の学生が、1看護単位に配置されることから、看護師が業務と学生指導を両立させることは負担が大きい。そこで、臨床に専任の実習指導者を配置する等の指導体制も求められる。

臨床は、実習指導という基礎教育と現任教育を担う看護教育全体に関わる場である。いわば、教育の発信地といえる。学校もまた、患者が何を看護に求めているのかをキャッチしている臨床との連携をはかることで、「患者の期待する」「臨床が必要とする」看護に応じる教育ができるものと考えられる。

## V. まとめ

臨床側は、日常的に行っている看護技術は卒業時習得していることを期待しているが、それにできていない基礎教育の状況が明らかになった。卒業生の技術力を高めるために、以下のことが示唆された。

1. 臨床側の、知識・技術の習得への期待の高い技術項目について、学校課題とするかを検討する。
2. 臨床と連携し、実習体験を広げ、学校課題は、学校の責任として到達度を確認し、その情報を赴任先に提供できるようにする。

## 引用文献

1. 井部俊子. 看護婦の卒後臨床研修はなぜ必要か. 看護展望 2001; Vol 26; 7-23.
2. 袖山悦子. 病院と学校の連携、就職後の新人の状況を通して. 新潟県厚生連看護部研究会集録 2002; 55-58.
3. 川村治子他. 医療のリスクマネジメントとシステム構築に対する研究、平成12年度厚生科学研究費補助金 2001; 191-195.
4. 看護行政研究会監修. 看護六法. 2003; 201.

5. 唄孝一他編:板倉宏. 看護婦静脈注射薬品過誤事件. 唄孝一他編. 別冊ジュリスト医事判例百選. 有斐, 1976; Vol 50; 14-15.

## 英文抄録

Recognition of an importance of the cooperation between basic education and clinical medicine to brush up a graduate's skill by the investigation of the gap between an acquisition degree of knowledge and technique and an expectation as a graduate

Central Nursing School, Head of the instruction department (retired<sup>1)</sup>, active<sup>2)</sup>), vice-principal<sup>3)</sup>  
Etsuko Sodeyama<sup>1)</sup>, Keiko Saitoh<sup>2)</sup>, Sachiko Hayashi<sup>3)</sup>

As for educating students, a nursing curriculum was revised in 1996, decreased training time in hospital and expanded training places. A technical range to experience gets narrow among students without a qualification so that it becomes hard to match a clinical demand to work enough in hospital just after graduation.

For graduates of our nursing school who completed the new curriculum, we investigated the gap between an acquisition degree of knowledge and technique at graduation and the expectation as a graduate. It was shown that medical staffs hoped the sufficient skills for routine works at the time of graduation, but our new basic education could not deal with it adequately.

The following suggestions were provided about basic nursing education and a clinical role to raise techniques of a graduate:

1. concerning the high technical items of expectation from clinical staffs, we will reevaluate whether they should be learned during nursing students, .
2. we will widen a training experience with a cooperation of clinical staffs and identify an arrival degree of nursing skills of an each graduate to offer this information to hospitals.

Key words: cooperation between basic education and clinical medicine, graduate's skill, acquisition degree of knowledge and technique, expect as a graduate

図 1 卒業生の知識・技術の習得度と看護師の求める知識・技術の習得度

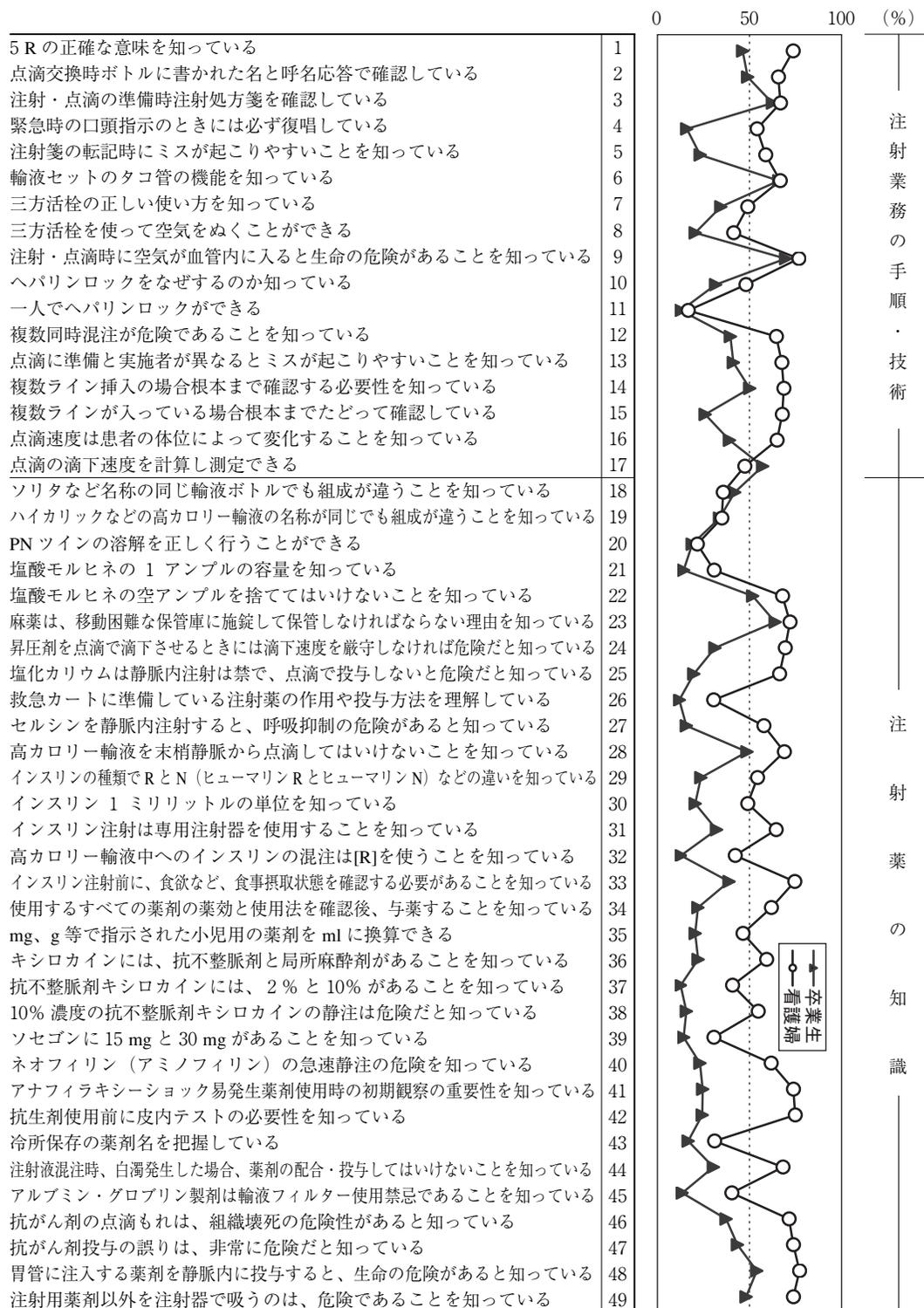


図2 卒業生の技術・知識の習得度と看護師の求める知識・技術の習得度

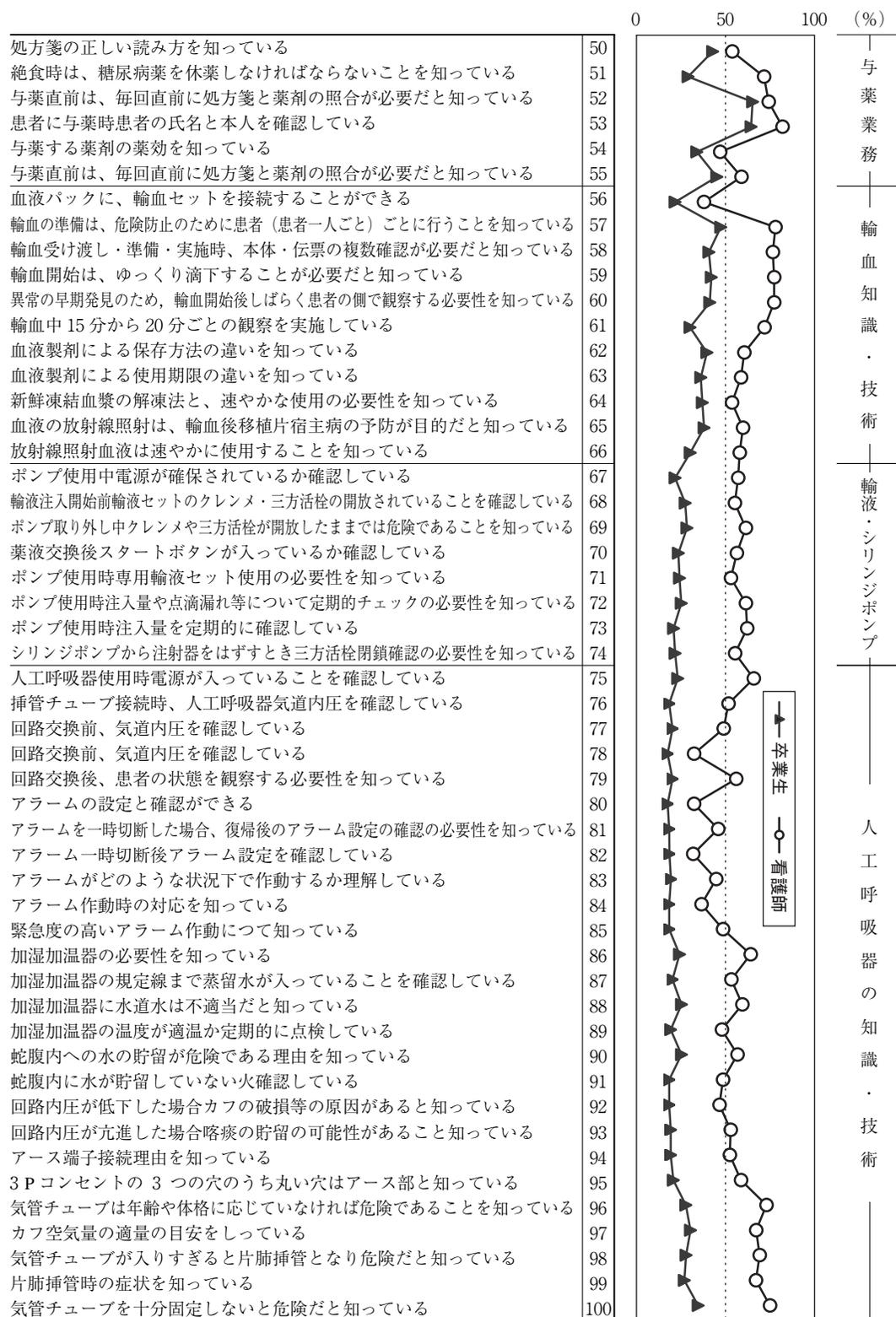


図 3 卒業生の知識・技術の習得度と看護師の求める知識・技術の習得度

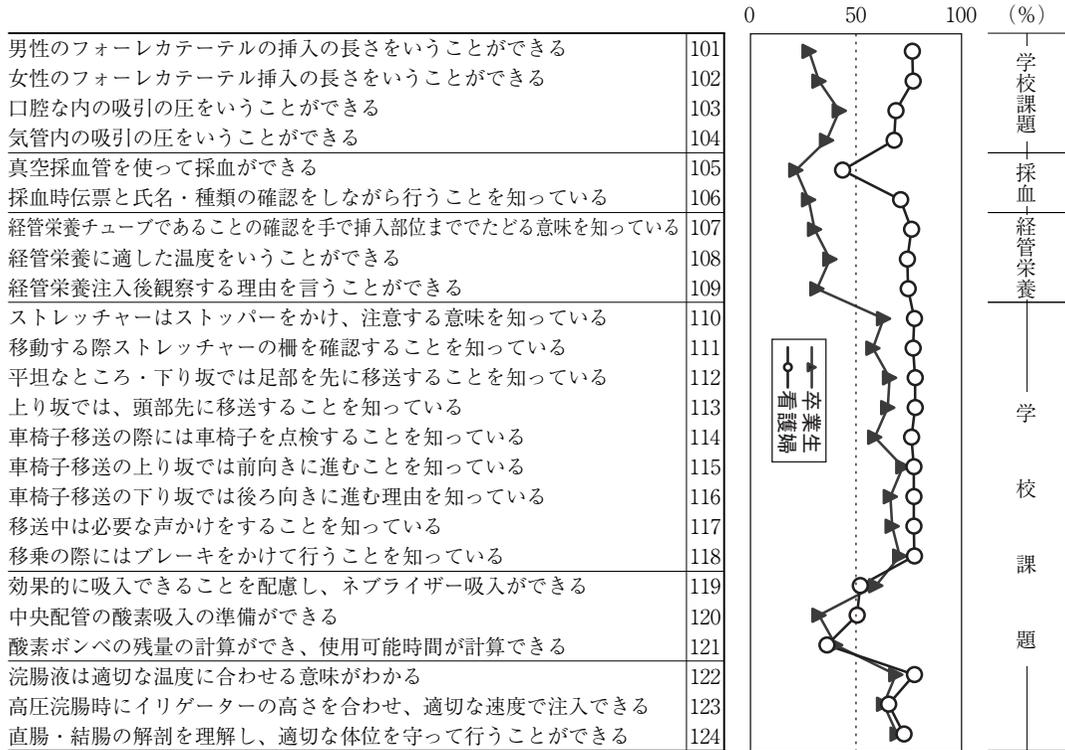


表 1 看護師と卒業生の比較 (2002)

	注射業務の手順・技術 17 (1~17)	注射薬の知識 32 (18~49)
看護師の期待度 80% 以上の項目数 (%)	8 (47.1)	13 (40.6)
卒業生の習得度 50% 以下の項目数 (%)	10 (58.9)	27 (84.4)
看護師と卒業生の乖離 30% の項目数 (%)	8 (47.1)	23 (71.9)
講義していない項目数 (%)、項目番号	3 (17.6) 8, 10, 11	7 (21.9) 20, 21, 26, 32, 37, 39, 43

表 2 看護師と卒業生の比較 (2002)

	与薬業務 6 (50~55)	輸血の知識と技術 11 (56~66)	輸液ポンプ・シリンジポンプ 8 (67~74)	人工呼吸器の知識・技術 26 (75~100)
看護師の期待度 80% 以上の項目数 (%)	2 (33.3)	4 (36.4)	0 (0.0)	1 (3.8)
卒業生の習得度 50% 以下の項目数 (%)	4 (66.7)	11 (100.0)	8 (100.0)	26 (100.0)
看護師と卒業生の乖離 30% の項目数 (%)	1 (16.7)	8 (72.7)	8 (100.0)	22 (84.6)
講義していない項目数 (%)、項目番号	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

表 3 看護師と卒業生の比較 (2002)

	採血の知識と技術 2 (105~106)	経管栄養の知識と技術 3 (107~109)	学校課題 19 (101~104、110~124)
看護師の期待度 80% 以上の項目数 (%)	1 (50.0)	3 (100.0)	15 (78.9)
卒業生の習得度 50% 以下の項目数 (%)	2 (100.0)	3 (100.0)	6 (31.6)
看護師と卒業生の乖離 30% の項目数 (%)	2 (100.0)	3 (100.0)	5 (26.3)
講義していない項目数 (%)、 <b>項目番号</b>	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)